

現場の記録から

沼津事業本部 富士事業所 佐藤 光

要注意! 暴風雨で太陽電池パネルが被災

私たち関東電気保安協会は、お客さまの電気設備でのトラブルに対応するため、24時間・365日、出動態勢を整えています。

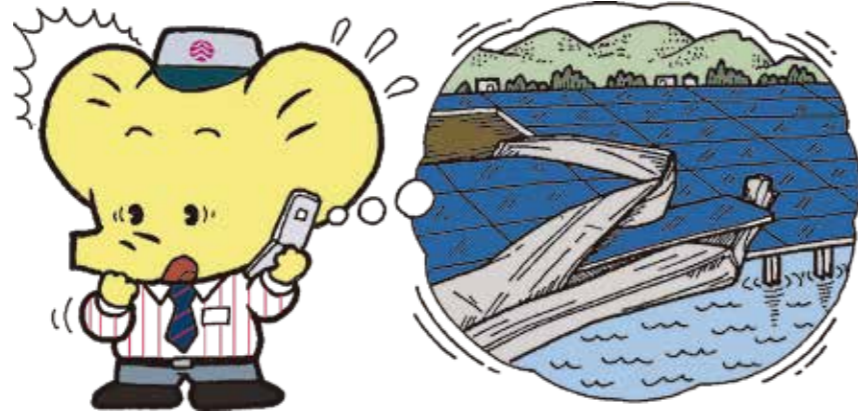


近年、台風や集中豪雨などの自然災害が増加し、暮らしや社会に甚大な被害をもたらしています。その影響は予見が難しく、思いもよらない大きな事故に発展してしまうことがあります。

電気設備も同様です。今回紹介するのは、暴風雨による敷地外からの飛来物によって、太陽電池発電所のパネルが被災した事例です。

◆ ◆ ◆
暴風雨となった翌日、太陽電池発電所の設置者さまから連絡がありました。

「昨夜の暴風雨により隣地建物



の構造物が飛来し、太陽電池パネルが破損したようだ。至急、現地を確認してほしい」とのことでした。どのような状況か想像が付きませんでした。急いで現地へ向かいました。

到着し、状況を確認したところ、隣地工場の屋根が強風で吹き飛ばされ、太陽電池パネルの上にかぶさり、パネルが大きく破損していました。

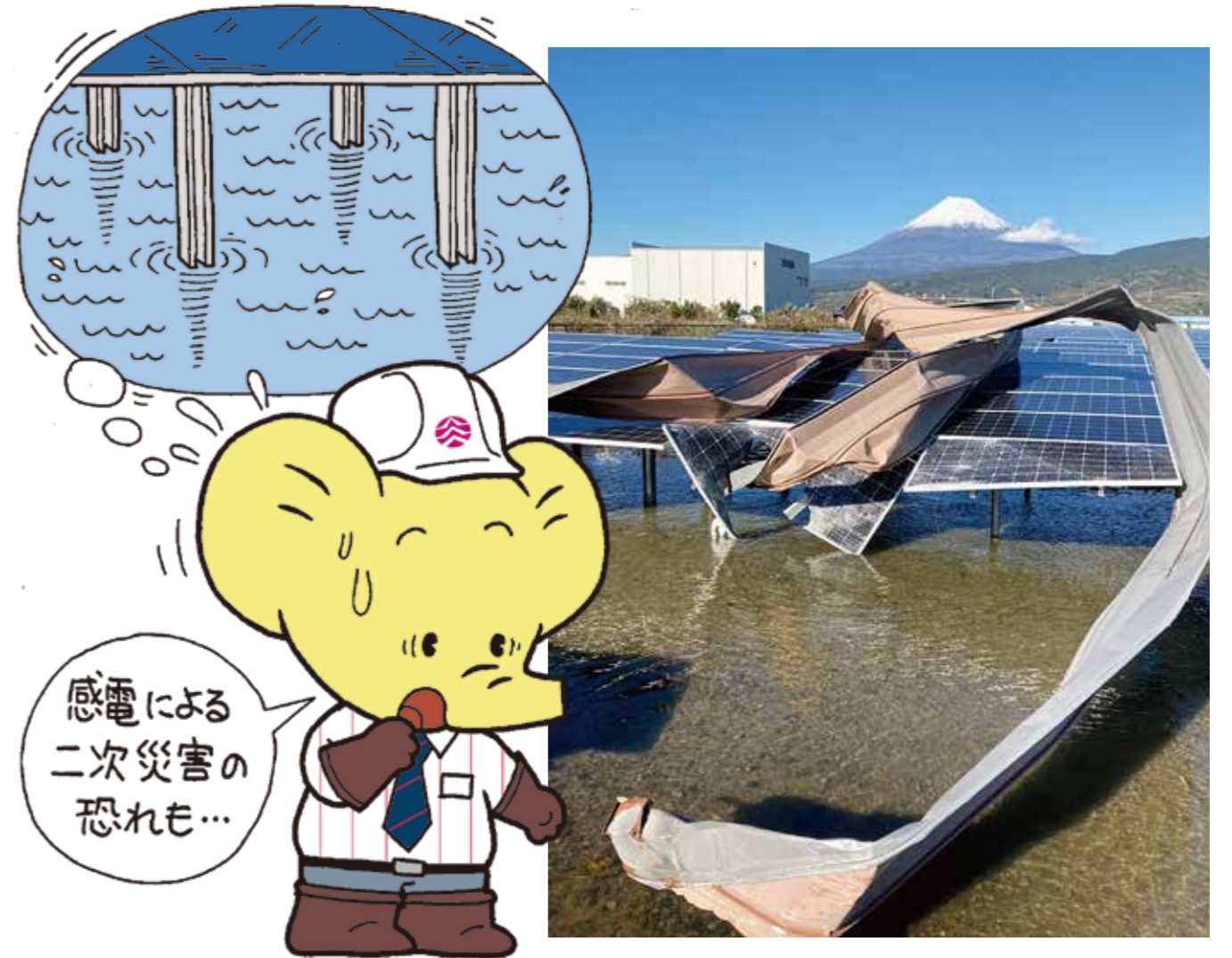
直ちに管理者へ電話で状況を報告したところ「集電箱内の開閉器を開放してほしい。また、破損した太陽電池パネルが敷地外へ飛散していないか確認を」と指示を受けました。

「台風一過」と言いますが、現地は朝から雲ひとつない晴天。太陽電池パネルはしっかり発電をしています。一方で、大雨の

影響でパネルの下には大量の水が溜まり、池のようになっていました。このような状況では、破損した太陽電池パネルなどに不用意に触れると感電し、二次災害となる恐れがあります。

状況を確認するため、車両に積んでいる安全用具（電気安全帽・高圧ゴム手袋・高圧ゴム長靴）を着用し、慎重に集電箱に向かいました。集電箱内の開閉器を開放し、安全を確保した上で、太陽電池パネルが敷地外に飛散していないことを確認。設置者さまへ状況を報告しました。

◆ ◆ ◆
再生可能エネルギーの利用拡大に向けて、各地で太陽電池発電所が建設されました。一方で近年の自然災害は激甚化しており、台風などの防風雨による太



陽電池パネルの水没、破損・飛散、架台の倒壊、あるいは地震による太陽電池発電所の倒壊といった事故が発生しています。

破損した太陽電池パネルは、安易に触れると感電する危険があり、注意が必要です。また、割れたパネルの破片が敷地外に飛散すると、近隣住宅などに被害を与える可能性があります。

自然災害による被害を完全に防ぐことは困難です。しかし、設置時の基礎の地盤調査、施工時の状況確認、さらに定期的に太陽電池パネルや架台のネジの緩みがないかなどの点検・管理を行うことで、被害を免れたり、

最小限に抑えたりすることは可能です。あらためて、事故の未然防止への取り組みが重要と考えさせられた経験でした。

なお、電気関係報告規則では、太陽電池パネルの敷地外への飛散、50kW以上の太陽電池パネル

破損を事故報告の対象としています。

暴風雨や地震の後など、電気設備において、事故などが発生した場合は、当協会の総合監視指令センターまでご連絡いただきますよう、お願い申し上げます。

